

魚類行動生理学の基礎と水産研究への応用

日時・場所：平成27年3月27日（金） 10:00～16:20 東京海洋大学品川キャンパス（第4会場）
企画責任者：棟方有宗（宮城教育大教育）・安東宏徳（新潟大臨海）・小林牧人（国際基督教大生命）

10:00～10:15 開会の挨拶 棟方有宗（宮城教育大教育）

I. 回遊とホルモン

座長 小林牧人（国際基督教大生命）
棟方有宗（宮城教育大教育）
10:15～10:40 1. サケ科魚類の降河回遊行動とホルモン
10:40～11:05 2. 太平洋サケの母川記銘・回帰行動の生理機構 上田宏（北大フィールド科セ）
11:05～11:30 3. クサフグの月周同調産卵回遊行動とホルモン 安東宏徳（新潟大臨海）
11:30～11:40 休憩

II. 行動調節とホルモン、フェロモン

座長 安東宏徳（新潟大臨海）
小林牧人（国際基督教大生命）
11:40～12:05 1. キンギョの性行動とホルモン
12:05～12:30 2. サケ科魚類の雌雄認識と性フェロモン 山家秀信（東京農大アクアバイオ）

12:30～13:30 休憩（昼休み）

13:30～13:55 3. トビハゼの水陸選択行動から行動の神経内分泌制御の普遍性への跳躍
坂本竜哉（岡山大臨海）

III. 行動の神経基盤

座長 棟方有宗（宮城教育大教育）
加川尚（近大理工）
13:55～14:20 1. 魚類の攻撃行動とホルモン
14:20～14:45 2. 魚類の摂餌行動・情動行動と脳ペプチド 松田恒平（富山大理）
14:45～15:55 休憩

IV. 行動の進化と多様性

座長 上田宏（北大フィールド科セ）
安房田智司（新潟大臨海）
15:55～16:20 1. カジカ科魚類の繁殖行動の多様性と進化
15:20～15:45 2. バイオロギングによる魚類の行動研究 北川貴士（東大大気海洋研）

15:45～16:15 総合討論 座長 小林牧人（国際基督教大生命）
16:15～16:20 閉会の挨拶 安東宏徳（新潟大臨海）

企画の趣旨

本シンポジウムでは、水産学会（水産研究）において展開されている魚類行動生理学に関する多様な研究を基礎から解説するとともに、漁業および増養殖への応用について議論することを目的とする。この目的のため、魚類行動生理学に関する、神経ペプチド、ホルモン、フェロモンなどの観点からの最

新の研究を紹介する。また行動学研究において行動生理学と関連の深い行動生態学の研究もあわせて紹介し、魚類の行動学研究における研究者の交流、情報交換を行い、水産学における魚類行動学の多面的な発展を目指す。